

患者の実態を視察

スウェーデン クレーース教授水俣に

来日中のスウェーデン政府有機水銀中毒に関する調査団のクレーース・ラメル・ストックホルム大学教授(四)が十七日水俣市を訪れ、市立湯の尻リハビリセンターに入院している水俣病患者の実態を視察した。

同教授は遺伝学専攻。水銀中毒の遺伝学的な影響や対策などを調べるため訪れた。同教授の話によると、現在スウェーデン国内にもメチル水銀を含んだ魚がいるが、早期に発見して魚獲を禁止したので水俣病のような水銀中毒患者は

いまのところ出ていないという。視察後、同教授は「話によれば、国の結論もまだ出ていないのに、地方自治体の患者に対する医療対策はよく行き届いている」と感想を述べていた。